

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「クラ・ゼミ」山形錦町校			
○保護者評価実施期間	7年 11月 17日 ~ 7年 12月 20日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	23
○従業者評価実施期間	7年 11月 13日 ~ 7年 12月 6日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	8年 1月 8日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている。	毎月1回以上の見学の機会を設けることで、これまでよりお子さまの状態を積極的に知りていただける機会が増えた。フィードバックの時間を課題だけではなく、成長を感じている点も共通理解をもつ時間としている。	より情報の共有や相談をしやすい環境づくり・信頼関係づくりを行っていく。職員の知識を深め、課題に対してどうアプローチをしていくべきかお伝えできるようにしていく。
2	固定化されていない活動プログラム	支援計画に基づいた活動を基盤としながらもそれぞれの指導員でアプローチ方法を変えている。	指導員間で話し合いを行いながら、より楽しく、ニーズに合わせた活動プログラムを立案していく。
3	支援の質向上を図るための社内研修受講	月に1回以上、社内研修を受講している。新卒向けの研修も充実している。	社外研修への積極的な参加、他校舎への支援見学等により、さらに支援の質向上を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭く感じる。隣ブースとの距離感。	机やパーテーション等の備品・教材の配置。	限られたスペースの中で活動に適したスペースを確保できるよう、備品や教材等の配置を調整する。また、同一時間に支援が重なっている場合は、必要に応じて隣の支援ブースと距離をとれるようにしていく。
2	支援当日中の担当間での情報共有	営業時間とサービス提供時間が同一であること、シフト制の勤務であること。	口頭での共有が難しい場合には社内システムのメッセージ等を活用し、情報共有に抜け漏れがないよう努めていく。
3	個人情報の扱いについて	保護者待合のカウンター席と事務室が密接しているため、事務室内での話が聞こえてしまうことがある。	特に氏名や学校名等の個人情報については、事務室外に聞こえることがないよう職員一人一人が留意していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		事業所評価の集計結果					
		公表日 2026年2月14日					
		利用児童数 23 回収数 23					
チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	9	0	0	・今の個別スペースは窮屈さや閉塞感を感じることもあるので、可能であれば、1.5~2倍程度のスペースがあることを望みます ・個別支援でも、隣の活動と混ざってしたり、教材が転がってきたりなどして注意が逸れることがありました。注意がそれでも集中を途切れさせない、職員さんの話を聞く為のツールなのであれば構わないと思います。 ・個別が必要な場合、スペースを確保していると感じます。ただ、距離感は近いのかなと感じることもあります。 ・もう少し広いとよいと思う	・限られたスペースの中で活動に適したスペースを確保できるよう、備品や教材等の配置を調整していきます。 ・同一時間に支援が重なっている場合は、必要に応じて隣の支援ブースと距離をとれるようにしていきます。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	20	1	0	2		
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	3	0	0	玄関から活動スペースに直結しているところが、安全面で心配な時があります。	定期的に不審者等への対策訓練を実施しております。 可能な限り玄関から活動スペースが見えないよう配慮していきます。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	3	0	0		
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援を受けられていると思いますか。	20	1	0	2	短時間の中でも専門的な知識に基づきポイントを突いた支援プログラムを行ってい、これはこのような特性のためのもので、このように子どもはとらえていて…など詳しく説明下さる職員の方もおられます。ただその日に行った活動の報告のみで終わる職員の方もおり、人によって専門性の高さに差があると感じます。担当下さる職員さんが日々変わるので、専門性の差もですが一貫した支援が行われているのか不安があります。	担当間での支援内容の共有をより密にしてまいります。 フィードバックの内容について、活動の目的、課題にどうアプローチしていくか、事業所外でも取り組める活動の紹介等もを行い、フィードバックの質の向上を図っていきます。
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22	1	0	0		
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20	1	0	2		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22	1	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	1	0	2		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	10	3	5	5		
支援の実施	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	1	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	3	2	8	ペアトレがあれば参加してみたいです。	現在は実施していないため、実施を検討していきます。

保護者への説明等	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	2	0	0	悩みをお伝えして聞いて下さるのはとてもありがたいのですが、先生により聞いて下さるだけで具体的なアドバイスがない事もあるので、こちらの思いを伝えるだけになってしまるのは勿体無いなと感じます。	必要に応じて具体的な助言等も行い、指導員によってフィードバックの内容に大きな差異が生じないようにしてまいります。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	2	0	1		
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	22	1	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3	2	8	10	・他の利用者さんのご家族との交流会などがあれば、参加してみたいです。 ・他のお子さんのご家族との交流があると嬉しいです。	現在は実施していないため、実施を検討してまいります。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18	2	1	2		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	2	0	1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	2	0	7		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20	1	1	1	保護者との共有時間は共用スペースで行なわれているため、同時に迎えの他利用者さんの情報が筒抜けであります。	限られたスペースではありますが、お話ををする際の場所や職員の声量に配慮してまいります。
	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	16	1	0	6		
非常時等の対応	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15	0	0	8		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16	2	0	5		
	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	22	1	0	0		
満足度	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	22	1	0	0	・向かう車の中で、今日は、誰先生かな？！と、楽しみにして通っています。 ・先生の名前もしっかり覚えており、利用日をとても楽しみにしています。今日は誰先生かな？とわくわくしています。 ・子供は毎回通所を楽しみにしています。	温かいお言葉ありがとうございます。今後も、通所が楽しみになる支援の提供や信頼関係の構築をしてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	1	0	0	いつも丁寧に支援して頂きとてもありがたく思っています。	温かいお言葉ありがとうございます。今後も一人一人の気持ちに寄り添った支援をしてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		事業所における自己評価結果				
		公表日 2026年 2月 14日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		机の配置などで、支援が提供できる場所を確保している。	利用が多く重なってしまった際は、スペースについて配慮や検討が必要。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・基準を順守し加配人員も充実している。 ・なにかあればフォローに入ることができる職員が日頃から複数名いるよう、調整を行なながら支援に当たっている。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・個室と半個室のスペースがあり、用途によって使い分けができる。 ・パーテーションでスペースをわかりやすくしている。	パーテーションが倒れやすい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・掃除などを定期的に行い、ゴミなどが落ちていた際には、その都度気づいた職員が対応している。 ・月ごとに季節の壁面装飾を行っている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・必要に応じて相談室(個室の部屋)が使用できるようになっており、特性に合わせた環境設定がなされている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		担当間で話し合う時間を設けており、目標や支援や方針を話し合う機会を多く設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表だけでなく、普段の支援内容フィードバックの時間に支援に対する意見や要望を取り入れることができている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		常日頃より指導員間で相談したいことなどがあれば話し合う機会を設けている。意見や提案があれば管理者に伝える機会も確保されている。また、コミュニケーションが図りやすい環境であり、要望があれば全体で検討できている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		同県内外の他校舎職員によるものや市の行政による内部監査を通し、外部からの評価を定期的に頂いている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・法定で定められている項目の研修に対し、社内全体で受講する機会が日頃より設けられている。 ・発達支援研究所の研修や新卒向けの研修などの機会がある。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		契約時やモニタリング時に丁寧なアセスメントを行い、ニーズと課題の把握に努めている。契約時には相談支援専門員からも情報提供いただき、家庭の様子の把握にも努めている。また、日頃から児童の様子や状態もよく観察し、計画に反映している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		個別支援計画作成時、職員会でカンファレンス実施し、子どもたちの成長と課題にあわせた且つ子ども自身がわくわくするような計画を作成することに努めている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		職員全体で支援計画を回観し、情報の共有を行っており、計画に沿った活動プログラムの検討をしている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツールが更新され、感覚特性や生活状況等、より5領域の支援に必要なアセスメントがとれるような形式になっている。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・特に小集団の活動において、それぞれの児童の特性に合わせた活動プログラムを話し合い決定している。 ・担当間で課題に対してのアプローチを話し合い、連携しながら進めている。	

供 給	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	・特別な事情がない限りは複数名の職員で支援を担当。支援計画に基づいた活動を基盤としながらもそれぞれの指導員でアプローチ方法を変えていく。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○	個別だけではなく、集団活動でのそれぞれに必要な支援を考え、毎回違った視点で楽しめるような取り組みを増やしている。普段は個別活動での利用児童に関して、必要に応じて小集団活動への参加を提案している。	空き状況により、ご案内できないことがある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	・集団活動において、それぞれの職員の動きを確認し、連携して支援を行っている。 ・毎朝ミーティングを実施。担当児童のみに限らず、把握しておくべきことを職員全員で共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	支援共有や打ち合わせは基本的に翌日行っている。気づいた点や即時共有するがあればその都度行っている。	サービス提供時間と営業時間が同じであるため、その日に振り返ることは難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○	・5領域を意識した記録を作成している。 ・支援の記録を細かく取り、担当間で情報を共有するツールとしても利用出来ている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○	半年に1回、担当指導員間で今後の展望や支援の方向性について見直しをしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○	地域の病院と連携し、何かあればすぐに駆け付けることができるようになっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	連携を実施している。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○	必要や要望に応じて小学校への情報提供や訪問を行っている。その際、可能な限り相談支援専門員にも同行して頂き、共通認識をもつことをを目指している。	
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	○		
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	○		
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	○		
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		療育センターの派遣事業について把握はしているが、依頼実績なし。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○	毎月1回以上の見学の機会を設けることで、これまでよりお子さんの状態を積極的に知っていただける機会が増えた。フィードバックの時間を課題だけではなく、成長を感じている点も共通理解をもつ時間としている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		外部の家族支援プログラムについては必要と思われる方を中心に、情報提供をしている。	自校舎では未実施。今後、必要に応じて様々な形(他校舎で取り組んでいる職員に協力を仰ぐなど)で実施していくことも検討ていきたい。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		新たな支援計画が交付された際には保護者様に説明を行い、今後の支援の方向性に関して共通認識を図りながら同意を頂いている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		支援後のフィードバックにおいて、何か相談があれば適宜援助を行っている。必要に応じて管理者・児発管との面談も促している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	保護者向けのイベントが開催できていないため、今後必要に応じて検討していく。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月ブログの更新を行うことに務めている。また、Instagramも有効活用しており、事業所からの情報を様々な形で発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		指導員間で児童の情報を共有する際に他の保護者様に聞こえないように注意している。	保護者待合のカウンター席と事務室が密接している為、声が聞こえてしまう。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		電話やLINEを活用し、予定の再確認などの配慮を行っている。また、必要に応じて紙面でのお渡しも行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域との連携は未実施。今後、必要に応じて地域との関わりを広げていく。	
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		校舎の職員全員が参加し、実践的な訓練に定期的に取り組むよう努めている。	
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		保護者への事前聞き取りを基に、常日頃から支援中も体調を確認。変化が見られた際には保護者への情報共有を随時行っている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	食事提供なし	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		事業所内で話し合い、訓練を行った内容に関しては教室内に紙面で掲示。保護者の目に留まるよう周知を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットに該当することがあれば事業所内で即座に共有。改善点を全員で話し合うよう努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			